

43 透析開始時間のグループ制導入の評価

諏訪赤十字病院 透析センター 守屋美恵、宮阪麻子、小山真美

五十嵐美都子、今井美雪

I はじめに

当院での従来の透析開始は、患者の穿刺の準備が出来た人から行っていた。しかし、患者の中には威圧的な態度や言動をとったり、「早く刺してもらおうのが当たり前」と思っているなど順番通りに出来ない状況が生じていた。そのような状況の中で、①患者より穿刺の順番に関する不平不満 ②スタッフの精神的ストレスや不公平感 ③透析業務の効率の悪さ、動線の悪さを感じていた。さらに、患者会より穿刺順番を公平にする方法をとってほしいという要望があがってきた。そこで、①公平性 ②精神的ストレスの軽減 ③業務の効率を図る を目的にH15年5月透析開始時間のグループ制を火木土に導入した。思考錯誤ではあったが1年が経過し、感覚的ではあるがそれなりの手応えを感じていた。今回、患者満足度調査及びスタッフの意識調査により透析開始時間のグループ制を評価したので報告する。

II グループ制の実際

- ・対象曜日…火木土
- ・対象患者…24名
- ・グループ分け…

赤、黄、青の3つの大グループをつくり、それぞれをさらに2つの小グループに分けた。

赤-1…4名	黄-1…4名	青-1…4名
赤-2…4名	黄-2…4名	青-2…4名

- ・ローテーションの方法…

1番穿刺の曜日は「赤グループ」が火曜日、「黄グループ」が木曜日、「青グループ」が土曜日とし、その中の「小グループ1」は第1週と第3週が早い穿刺、「小グループ2」は第2週と第4週を早い穿刺とした。

1番穿刺曜日	火	木	土
グループの色	赤	黄	青
第1週	1	1	1
第2週	2	2	2
第3週	1	1	1
第4週	2	2	2

III 目的

透析開始時間にグループ制を導入して約1年が経過し、その有効性を患者満足度調査及びスタッフの意識調査により評価する。

IV 対象及び調査方法

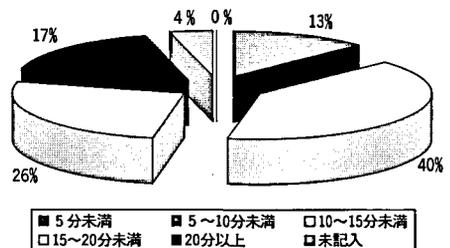
- ①火木土の患者23名を対象にアンケートによる満足度調査。
- ②透析センター看護師17名を対象に記述式による意識調査を行い、複数回答とし、KJ法でまとめた。

V 結果及び考察

1. 患者満足度調査結果

(1)「穿刺までイライラせずに待てる時間」は、83% (18名) が20分まで待ると返答している。「実際の穿刺までの待ち時間」は、20分未満が、1番穿刺では96% (22名)、2番穿刺では50% (11名) 3番穿刺では22% (5名)であった。

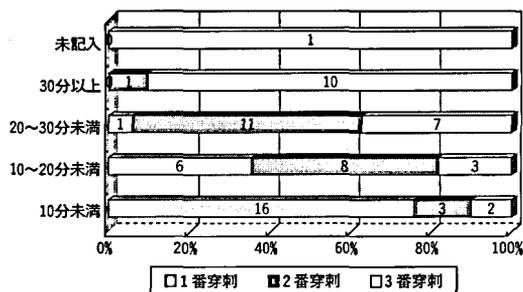
穿刺までにイライラせず待てる時間



守屋美恵 諏訪赤十字病院透析センター

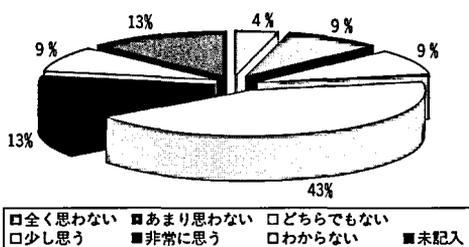
〒392-8510 諏訪市湖岸通り5-11-50 0266-52-6111

穿刺までの待ち時間



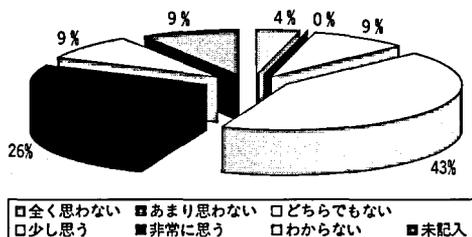
(2) 待ち時間は以前より短くなったと 56%が感じていた。患者は1番穿刺以外は穿刺順番に合わせて来院することはなく、23人中13人は1番穿刺と同じ時間に来院していた。その結果、2番・3番穿刺は待ち時間が20~30分以上あり、待ち時間が短くなったと感じていない原因と予測される。

穿刺までの時間は以前より短くなったか



(3) 「穿刺時間が公平になったと思うか」では、「非常に思う・少し思う」69% (16名)。「あまり思わない」「全く思わない」4% (1名)「分からない」9% (2名)であった。この内、「分からない」は以前の体制を経験しておらず比較できないために分からないと返答していた。「全く思わない」1名は個人的な理由を上げていたが、現在はグループ制に協力的である。

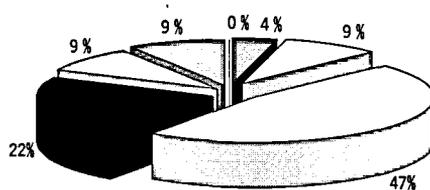
穿刺時間が公平になったと思うか



(4) 「穿刺は決められた通りに行われていると

思うか」では、「少し思う・非常に思う」が68% (16名)であった。

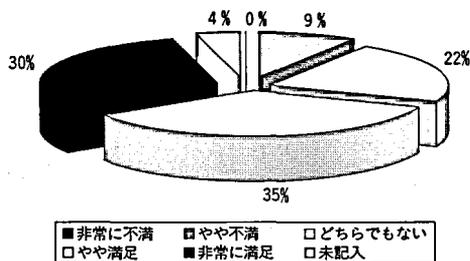
穿刺は決められた通りに行われていると思うか



穿刺から回収までの満足度

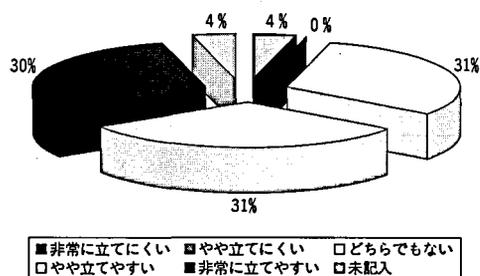
(5) 「透析終了から回収までの満足度」は「やや満足・非常に満足」65% (15名)。「やや不満」9% (2名)。「非常に不満」0%であった。除水完了チャイムがなってから回収までの待ち時間は、5分以内14名、それ以上4名、わからないが1名であった。当院の除水完了チャイムは透析終了時間の6分前に鳴るように設定され、患者にも説明されている。このことから必要以上に回収を待たしていることはないといえる。

穿刺から回収までの満足度

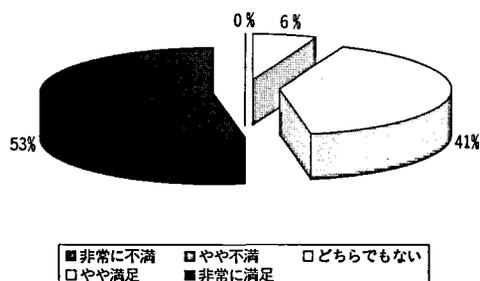


(6) 「穿刺順番が分かることで一日の予定が立てやすくなったか」では、「非常に立てやすい・やや立てやすい」61% (14名)「どちらでもない」31% (7名)である。「どちらでもない」の理由は、送迎サービスを利用しており、迎えの時間が固定しているためであった。

穿刺順番が分かることで一日の予定が立てやすくなったか

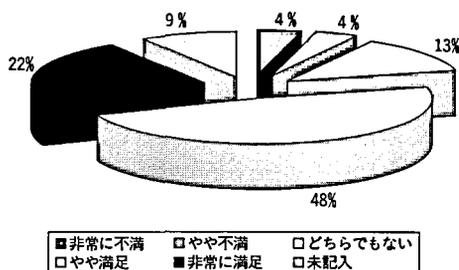


グループ制に対する看護師の満足度



(7)「今の方法に満足しているか」では、「やや満足・非常に満足」70% (16名)。「どちらでもない」13% (3名)。「やや不満・非常に不満」8% (2名)であった。

今の方法に満足しているか



以上より、全質問項目において、約70%がグループ制に対して肯定的意見といえる。透析歴1年未満13% (3名)が過去の体制と比較できないために「分からない」と返答している。

2. スタッフの意識調査結果

(1) 穿刺順番については、「穿刺順番のトラブルがなくなり、看護師の精神的ストレスが減った」「順番を気にせず、穿刺に行ける」「穿刺順番が公平になっている」と感じており、穿刺が公平になり看護師のストレスが減少している。また、穿刺の動線がスムーズになり効率が良いと感じていた。

(2) 回収への影響では、回収の動線が短くスムーズになり、効率が良いと感じていた。

(3) 午後透析への影響では、グループ制にした結果、次の勤務帯の準備がし易いと感じていた。また、全体として、94% (16名)が現在のグループ制にある程度満足感を感じていた。6% (1名)は以前の体制を知らないため比較できないが、グループ制に否定的ではなかった。

以上より、穿刺順番に関してある程度公平性は保たれ、看護師の精神的ストレス軽減、業務効率が良くなったといえる。

- 今後の課題として、①小グループ内での穿刺順番の問題。②穿刺順番を考慮した定期検査の組み方。③午前透析の回収と午後透析の開始が一部重なり、次の勤務帯への影響がある。④穿刺をスムーズに進めるための応援体制。⑤全体の準備の遅れ等が上げられた。

VI まとめ

週3回4～5時間を透析に費やされる透析患者さまにとり、いかに早く、スムーズに穿刺され、終了するかは大きな位置を占める。今回、透析開始時間のグループ制を導入して、以下の効果が得られた。

- ①待ち時間の短縮、穿刺の公平性にある程度有効であり、効率的に機能していた。
- ②スタッフの精神的負担が減少した。
- ③透析の穿刺・回収の効率性のアップにつながった。

しかし、さらに効果を上げるには上記に示された問題を解決する必要がある。今後も、患者さまの視点にたった業務改善をすすめ、患者及び医療従事者の満足度を上げていきたい。

参考文献

- 千野啓子他：透析開始時間のスライド制導入を試みての検証, 長野県透析研究会誌 Vol 23 No.1, 2000
 高杉能子：患者満足度調査に取り組む, P30～41, 医療CS, 日総研
 磯山洋子：顧客の声を看護改善に行かす, P30～59, 医療CS, 日総研
 高橋啓子：医療CS入門講座, 日総研